

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	玉浦 有紀 【ライフサイエンス専攻 平成28年度生】	<p>維持血液（濾過）透析（Hemodialysis (hemodiafiltration) : HD (F))患者を含む慢性疾患患者の生命予後・QOL・医療経済など種々の医療アウトカムを改善するためには、医療者の提言に患者自身が同意し自ら行動をとるアドヒアランスが重要となる。本研究では、医療者側の提言に従うだけでなく、患者の主体性が求められる、アドヒアランスの向上に向け、研究1~3で、自己申告による評価を行動レベルに発展させ、その妥当性や関連する患者背景を検討した。そして、研究4では、結果を踏まえた教育媒体を開発し、具体的な介入法の提案を提示した。</p> <p>学位論文審査には、食品栄養科学領域および健康心理学の先生方に審査にあたっていただいた。第1回審査委員会（2018年12月20日）で、論文内容は審査を受けるに十分であることが評価され、2019年1月9日、口頭発表が行われた。その後、審査会で指摘を受けた事項について、修正された論文が提出された。審査委員の質問・指摘について、的確に対応し修正されていたことを確認し、審査委員会は公開発表会を行うことを決めた。公開発表会は2019年1月29日に開催された。発表内容においても前回の指摘事項が修正され、質疑応答も、的確に回答した。その後開催した審査会（2019年1月29日）にて、審査委員会は本論文に対して、以下の点を評価した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の主体性に重点が置かれるアドヒアランスの改善のため、これまでの自己申告評価法を行動レベルに発展させたこと 2. 研究結果を踏まえて、患者に身体的・社会心理学的特徴にそった介入方法を提案したこと <p>本研究に関する研究成果は、すでに筆頭著者として、国際誌（査読あり）の <i>The Journal of Renal Nutrition</i>(2019, 29 (1), 24-32.e5), <i>European Journal for Person Centered Healthcare</i> (2018, 6(3), 350-357) で発表されている。</p> <p>以上を総合して、本審査委員会は、本論文を、本学大学院人間文化創成科学研究科における博士(学術), Ph. D. in Nutrition Education の学位を受けるにふさわしいと判断した。</p>
論文題目	維持血液透析患者の食事・水分管理アドヒアランス改善に向けたアプローチ法の検討	
審査委員	(主査) 教授 赤松 利恵	
	准教授 須藤 紀子	
	講師 市 育代	
	教授 飯田 薫子	
	教授 大森 美香	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている <input checked="" type="radio"/>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	